被災地守る医の道へ

岩手医大 403人決意の入学式

盛岡市の岩手医大（小川彰学長）の入学式は28日、同市内丸の県民会館で行われた。同大付属病院の医師たちは東日本大震災後すぐに被災地の急性期医療に携わり、災害医療の司令塔として多くの命を救った。今も診療支援を中心に被災者を支え続ける。震災の年に医学の門をたたいた入学生403人は、被災地のために尽力する先輩たちのように、将来の地域医療を担う決意を新たにした。

入学生を代表し、小川彰学長（右）に宣誓する（左から）森口知憲さん、柳沢基さん、斎藤大誠さん＝盛岡市内丸・県民会館

保護者や関係者ら約600人が出席。式に先立ち、震災の犠牲者に黙とうをささげた。入学生を代表して柳沢基さん(20)＝神奈川・桐蔭学園高卒＝ら3人が「建学の精神と学則にのっとり、学生の本分を全うすることを誓う」と宣誓した。

医療人を目指し一歩を踏み出した入学生の思いは被災地へと向く。佐々木航人さん(18)＝盛岡一高卒＝は「震災で地域医療を崩壊させてはいけないという使命感がより強くなった」と話し、佐藤貴紀さん(18)＝花巻北高卒＝は「避難生活が長引くと被災者の心身の負担が大きくなるだろう。心を癒やすことのできる医師になりたい」と意気込む。

杣理華子さん(18)＝盛岡一高卒＝は「今すぐ直接的な支援ができないのが歯がゆい。被災地の力になるためにしっかり学びたい」と決意し、下山賢さん(19)＝同＝は「震災で何もできず、悔しい思いをしたが、きょうようやく医療に携わるスタートラインに立てた」と喜んだ。

小川学長は「本学は県の災害拠点病院のセンターとして、極めて早く効率的に災害医療態勢を確立し、司令塔としての実務を担った。地域医療の再生には幾多の困難と長い年月を要する。今後とも大学を挙げて最大限の努力をしていく」と述べ、「医療人の基本である人格形成に努めてほしい」と入学生を激励した。

入学生の内訳は、地域枠（特別推薦試験）15人を含む医学部120人（県内高校出身者27人）、歯学部52人（同17人）、薬学部167人（同93人）など。

落石が車直撃 運転女性けが

一関・川崎の県道

28日午前7時半ごろ、一関市川崎町門崎の県道で土砂が崩れ、約70㌧四方の落石が通行中の乗用車のボンネットを直撃した。運転していた同市の50代女性が首に軽いけがを負った。安全確認のため、同市舞川から同市川崎町門崎まで約9㌔が通行止めになっている。

千厩署などによると、道路脇の高さ約20㍍ののり面が崩れ、土砂や木が落石防止のフェンス際に重なり、それを乗り越えて石が落下したとみられる。

県千厩土木センターは地震で地盤が緩んだところに雨が降ったことで、土砂が崩れたとみて調査している。

お物見公園に地割れ

奥州・前沢 震災余震で 県と市、警報器設置

7日発生した東日本大震災の余震により、桜の名所として知られる奥州市前沢区のお物見公園周辺で多数の地割れが発生し、立ち入り禁止になっている。県南広域振興局と奥州市は28日、公園周辺に地盤の伸縮計と連動する警報器を設置。地面の亀裂が1時間で4㍉動いた場合などにサイレンが作動し、住民に自主避難を促す。

高台にあるお物見公園と周辺の急傾斜地は各所に地割れが発生。幅90㌢、深さ60㌢の大きな亀裂もある。市道も段差によって通行できない状態になっている。

伸縮計は4カ所に設置した。亀裂が▽1日に1㌢動いた場合▽設置後合計で10㌢動いた場合―でも警報器が作動してサイレンが5分間鳴る。その場合、付近に住む7世帯は安全が確認されるまで前沢総合支所に自主避難する。

県南広域振興局は、地質を調査して地滑りが発生しないか確認する。佐々木範喜道路河川環境課長は「今回の地割れは地震によるものと考えられるが、梅雨時季の地下水の影響などを把握し、地滑りの可能性について調べたい」としている。

震災乗り越えサケ旅立ち

宮古・磯鶏小 稚魚放流

無事を願いながらサケの稚魚を放流する磯鶏小の2年生＝宮古市茂市の閉伊川

宮古市の磯鶏小（阿部悟校長、児童316人）の2年生47人は28日、同校で飼育し、震災を乗り越えて生き延びたサケの稚魚約500匹を同市茂市の閉伊川に放流し、無事に回帰することを願った。

児童は「また会おうね」などと話し掛け、体長約5㌢に育った稚魚を丁寧に川へと放した。前川桜子さんは「『頑張ってね』と言いながら放した。4年後、元気で帰ってきてほしい」と目を輝かせていた。

同校への避難者3人も児童と一緒に放流した。

稚魚は、宮古漁協から2月初めに卵で提供を受けた。震災では数日間停電となったが、稚魚は幸い生き残っていた。

失業 解雇 高まる不安

雇用情勢悪化 沿岸住民切実な声

東日本大震災後、沿岸部の雇用情勢が急激に悪化していることが28日、岩手労働局の発表で数字で示された。沿岸部で3月12日～4月24日に離職・休業票の交付を受けたのは9474人と全県の半数。津波で会社や漁港が流失し、多くの人が職場を失った。残った企業も営業再開の見通しが立たず、解雇や求人の取り消しが相次ぐ。生活再建がままならない中、求職への切実な声と将来への不安が日増しに高まっている。【本記1面】

大船渡公共職業安定所は離職・休業票交付件数（3月12日～4月24日）が4092件と沿岸部の約半数。約1カ月で1年分の件数を超え、昆忠昌所長は「今までの雇用対策ではカバーしきれない。国の雇用対策を活用し被災者の生活安定を図りたい」と苦慮する。

被災者は仕事がなく不安だけが募っていく。陸前高田市高田町の土木作業員新沼政春さん(56)は、働いていた建設会社が津波で流された。仕事を探そうにも仕事自体がない」と嘆く。釜石市大渡町の定置網船の乗組員山根良人さん(58)は「定置網の求人は九州にしかなかった。また地元の海で働きたいが、この状態では2～3年はかかると思う」と頭を悩ませる。

がれき撤去作業で被災者を雇用するなど雇用対策も始まっているが、非正規雇用では不安が消えない。山田町の男性(38)は「震災関連の求人も、資格の有無など選考基準は厳しいまま。企業は門戸を広げて選考してほしい」と訴える。

一方、被災して従業員を解雇せざるを得ない企業も多く、新規求人は望めないのが現状だ。海産物卸売などを手掛ける大船渡市の毛利（毛利清平社長）は、津波を受け3月末で社員11人のうち10人を解雇した。再びパート3人を雇用したが、通常営業の見通しは立たない。毛利社長は「せめて無利子や無担保での融資制度があればいいのだが」と支援の拡充を求める。

老舗の大船渡プラザホテルも社員47人を一時解雇。10月に営業再開を予定し、再雇用する方針だ。経営するサクラダの桜田直久社長は「雇用を守るためにも、復興の意思がある事業者をアシストしてほしい」と強調する。

騒音被害2万2千人提訴

米嘉手納基地 周辺住民3度目

米空軍嘉手納基地（沖縄県嘉手納町など）の周辺住民約2万2千人が米軍機の騒音で健康を害したとして、深夜から早朝にかけての飛行差し止めと約446億円の損害賠償、さらに将来の損害分の賠償を国に求め、那覇地裁沖縄支部に28日、提訴した。同基地の騒音をめぐる提訴は3度目。原告は「うるささ指数（W値）」が75以上の嘉手納町や沖縄市など5市町村の約7500世帯で、弁護団によると、原告数は各地の米軍基地をめぐる同種訴訟で最多。

池宮城紀夫弁護団長は提訴について「米軍基地を押しつけられている沖縄の状況を根本的に打破する闘いだ」と強調。新川秀清原告団長(74)も「嘉手納の爆音は激化し、もう我慢できないという思いが原告の多さにつながった。日米両政府にわれわれの痛みを突きつけていく」と述べた。

訴状によると、住民側は米軍機の騒音で睡眠を妨害され、耳鳴りや聴力障害などの被害も受けていると主張。過去の2度の訴訟で「騒音は受忍限度を超え違法」とされたのに国は抜本的な対策を講じておらず、損害賠償だけでなく、飛行差し止めにも義務を負うと訴えている。

嘉手納基地は、敷地は約20平方㌔と東アジア最大級で、約90機が常駐している。

停電中女性暴行 盛岡の男を起訴

裁判員裁判に

地震で停電中に女子学生方に侵入して暴行し、けがを負わせたとして盛岡地検は28日、住居侵入と強姦致傷の罪で、盛岡市盛岡駅西通1丁目13の1、会社員松永享容疑者(29)を盛岡地裁に起訴した。裁判員裁判の対象となる罪での起訴は県内11件目。

起訴状などによると、松永被告は8日午前0時50分ごろ、同市の10代後半の女子学生方に侵入し、暴行。約1週間のけがを負わせたとされる。

ニュースファイル

◆ひき逃げ容疑で女逮捕

北上署は28日、自動車運転過失傷害と道交法違反（ひき逃げ）の疑いで、北上市村崎野9の199の10、無職佐藤あゆみ容疑者(26)を逮捕した。

逮捕容疑は28日午後0時52分ごろ、同市村崎野の国道4号で乗用車を運転中、十字路交差点を左折する際、自転車で横断中の同市の男性(51)と接触し、救護せずにそのまま逃走した疑い。男性は左足ねんざの軽傷を負った。

◆傷害容疑で男逮捕

花巻署は28日、傷害の疑いで花巻市金矢1の218の2、会社員佐藤勲容疑者(57)を逮捕した。

逮捕容疑は26日午後9時10分ごろ、花巻市内の飲食店で、同市の男性(67)の言動に腹を立て、頭突きなどの暴行を加えて軽傷を負わせた疑い。同署によると、2人は顔見知りで、酒に酔っていた。

◆北上の工場で火災

28日午後5時15分ごろ、北上市村崎野21の119の15、司ゴム電材北上事業所の工場内から出火。段ボールなどを焼いた。原因調査中。（北上署調べ）

◆久慈・山形で雑草焼く

28日午後1時55分ごろ、久慈市山形町小国の畑から出火。雑草など約17㍍を焼いた。原因調査中。（久慈署調べ）

◆奥州・江刺で97戸停電

28日午前5時10分ごろ、奥州市江刺区米里の97戸が停電。同6時57分までに復旧した。折れた木の枝が高圧線に接触した。（東北電力水沢営業所調べ）

◆九戸では143戸

28日午後3時25分ごろ、九戸村江刺家、山屋、長興寺の計143戸が停電。午後5時8分までに復旧した。電線を固定している部品が破損し、漏電した。（東北電力岩手支店調べ）

この紙面の著作権は岩手日報社が保持しています。無断転載、複製及び配布は禁止します。